

# 若齢で発症した喉頭麻痺の犬の1例

兵庫ペット医療センター東灘病院  
谷口哲也



## 血液検査 CBC, 生化学, 血液ガス(静脈血), 甲状腺ホルモン

WBC	0.86 × 10 <sup>3</sup> / μl	Tbill	0.2 mg/dl	pH	7.374
RBC	7.14 × 10 <sup>6</sup> / μl	AST	29 U/l	PCO <sub>2</sub>	35.3 mmHg
Hb	18 g/dl	ALT	72 U/l	BE	-4 mmol/l
MCV	71.9 fL	ALP	245 U/l	HCO <sub>3</sub>	20.8 mmol/l
MCH	25.2 pg	TP	6.5 g/dl	Lac	2.09 mmol/l
MCHC	35 g/dl	Alb	3.7 g/dl	T4	0.8 μg/dl
RDW	27.6 %	BUN	18.5 mg/dl	FT4	0.6 ng/dl
PLT	25.9 × 10 <sup>4</sup> / μl	Cre	0.7 mg/dl	TSH	0.048 ng/dl
PCV	51 %	Ca	9.9 mg/dl		
		GLU	110 mg/dl		
		Lip	65 U/l		
		CRP	0.9 mg/dl		
		Na	149 mEq/l		
		K	4.4 mEq/l		
		Cl	113 mEq/l		

## 喉頭麻痺について

- ・ 症状  
運動不耐性、大きな呼吸音（喘鳴音）、チアノーゼ、虚脱、鳴き声の変化、吐き気、嘔吐、吐出、発咳
- ・ 確定診断は喉頭鏡検査
- ・ 吸気時の披裂軟骨の外転がないことを確認
- ・ 治療は外科  
声門を広くして運動していない時の換気能を確保し、同時に喉頭の機能のある程度維持するため、喉頭蓋が声門をおおえるようにして水や食べ物が誤嚥しないようにする



症例提供：日本獣医生命科学大学 藤原亜紀先生



## X-ray 喉頭



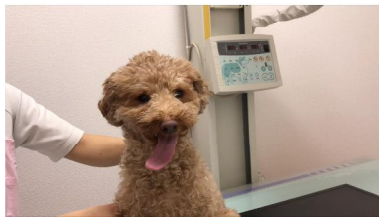
異常所見なし



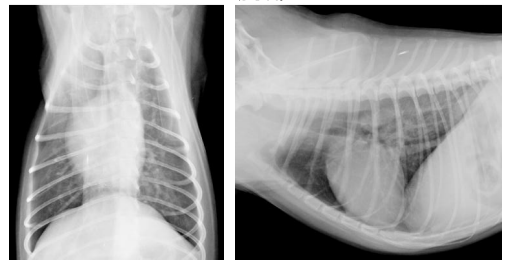
## 症例

トイ・プードル 3歳 去勢オス

- ・ 喉頭性咳 50回/day
- ・ 嘔声(+), レッチング(+)
- ・ 嚥下/飲水障害(+)
- ・ 喘鳴、運動不耐性(-)
- ・ 鼻汁/くしゃみ(-)
- ・ Rattling/Wheezing/Stridor(-)
- ・ 呼吸様式：異常なし
- ・ Auscultation：異常なし



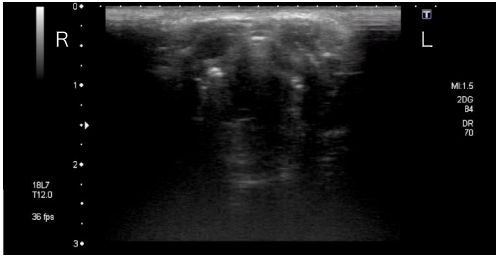
## X-ray 胸部



中〜後肺野のびまん性の気管支間質影、心臓背側の食道拡張

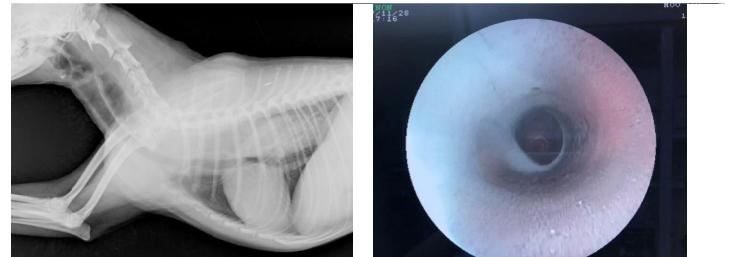


## Echo 喉頭



左側の楔状突起のわずかな可動を認める

## 第29病日X-ray 食道内視鏡検査



食道全域における食道陰影の拡張、食道内唾液貯留

## 透視X線検査 飲み込み試験



嚥下障害（誤嚥）、食道機能低下、食道尾側領域の拡張

## 喉頭鏡検査 気管気管支観察



左側披裂軟骨は吸気時にわずかに外転するが、右側披裂軟骨は呼吸に同調した動きは見られない

## primary diagnosis

- 鑑別診断リスト
1. 喉頭炎
  2. 輪状咽頭アカラシア
  3. 多発性筋炎
  4. 後天性特発性喉頭麻痺
  5. 局所型重症筋無力症(局所型MG)

咀嚼筋筋炎抗体：<1:100（参考基準値：<1:100）

アセチルコリンレセプター抗体：0.04nmol/L（参考基準値：0-0.6nmol/L）  
眼瞼反射の反復に対しても正常な反応あり  
エドロホドニウム検査実施せず

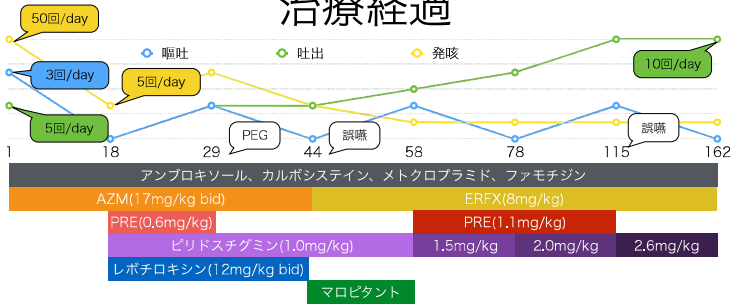
## secondary diagnosis

- 鑑別診断リスト
- ・ 後天性特発性喉頭麻痺
  - ・ seronegative MG

### 治療プラン

- ・ PEG
- ・ プレドニゾン(PRE)：0.6mg/kg
- ・ ピリドスチグミン：1.0mg/kg/day
- ・ アンブロキシール(3.2mg/kg bid)、カルボシステイン(13mg/kg bid)
- ・ メトクロプラミド(0.41mg/kg tid)、ファモチジン(0.53mg/kg sid)

## 治療経過



兵庫ペット医療センター東灘病院  
<http://www.hyogopet-higasinada.com>

谷口 哲也  
 Email:tanitetsu0212@gmail.com

## 治療経過

### 最終診断

第201病日：元氣消失（前日にピリドスチグミンを増量）

アセチルコリンレセプター抗体：0.13nmol/L（参考基準値：0-0.6nmol/L）

#### 診断

・ 後天性特発性喉頭麻痺

#### 治療

- ・ アンプロキシロール(3.2mg/kg bid), カルボシステイン(13mg/kg bid)
- ・ メトクロプラミド(0.41mg/kg tid), ファモチジン(0.53mg/kg sid)

#### 経過

- ・ 現在250病日で吐出の症状は認めるが喘鳴等の呼吸器症状はなく、末梢神経障害もなく経過良好

## 考察

### 人医療の片側性喉頭麻痺について

遷延性/反復性の喉頭麻痺の鑑別診断リスト  
 変性性疾患、腫瘍、血管性病変、反復性根神経炎  
 Engstrom HE and Wohlfart G, 1949

末梢神経の直接的侵襲にヘルペスウイルスの関与が示唆されている  
 Symonds C, 1958

ギランバレー症候群に相当する発症機序、すなわち神経アレルギーに起因するものが含まれる可能性がある  
 廣瀬 肇、西沢典子, 1968

	喉頭麻痺	本症例
披裂軟骨の不動化	○	○
発症年齢	7-12歳	3歳
喘鳴	○	×
呼吸困難	○	×
嚥下障害	×	△
嘔声	△	○
嘔吐/吐出	△	○
運動不耐性	○	×
発症後の末梢神経障害	○	×